

住みごこち一番・可児 ―～安心、元気、楽しいまち～の推進



「二つの積み重ね」

会長 大歯美代子

世の中で起こる大きな出来事は、長い年月にわたる「小さなこと」が積み積もって「大きな成果が生じます。」

本センターは、長きにわたる可児市民への人権啓発活動を行っています。

例えば学校への啓発活動として、①ブックス・フロー(小学校人権本巡回)②ぬくもり教室(小学校巡回人権教室)③人権標語・300字小説募集を教育委員会と協力しながら続けています。

小学校の人権本巡回では、本センターの人権本を借りた子ども達にプレゼントとして、本1冊につき「まゆちゃん」4コマ漫画が印刷された「しおり」が貰えます。

「ブックス・フロー」が巡回する時期には、楽しみにして登録してくれる」と小学校の先生方から聞きました。

このように、今年度も様々な啓発活動を行ってまいります。

これからも皆様の「ご支援・ご協力」をお願いいたします。

『担当リーダーから各事業の紹介』

〈ぬくもり教室〉

かけがえない子どもたちの笑顔。笑顔に出会える時は、その子どもの人権が日常生活の中で守られているからこそだと考えられます。人権の大切さを深く知ってもらうために、小学校に出向いています。ぬくもり教室で学んだことが、悩みを解決する手がかりになれば幸いです。元氣いっぱい、笑顔いっぱい過ごせますように！

〈標語・300字小説〉

言葉は人と人を結ぶ手段です。でも表現によっては、時として誤解されて気持ちにズレが生じてしまうこともあります。文字は言葉に代わる方法ですが、時・所にかかわる事なく、人と人を結ぶ事ができます。その結晶とも思われる深く考えられた標語・小説は、目にされた時皆さんの心に残ると思います。

〈機関紙ぬくもり〉

「ぬくもり」は人権啓発センターの活動を市民の皆様にご覧いただける分かり易くお伝えするための機関紙です。その発行のお手伝いを、推進員3名が事務局の依頼により記事を書いたり写真を撮ったりするのが仕事です。私たち推進員はそれぞれの特徴を生かせるように知恵を出し合いながら皆様に楽しんで人権を学んで頂けるよう、これからも頑張っています。(K・I)



令和5年度の活動計画

(令和4年度に準じて実施する)

市民への広報・啓発活動を行い、人権尊重の理念を深めていく活動を展開していきます。

目標 啓発人口:10,000名/年

重点 持続可能な開発目標(SDGs)

「誰一人取り残さない」ことを誓って!

「子どもと全ての世代の人への人権の取り組み」

人権相談



ご相談ください。コーディネートします!!

学校・企業啓発・勉強会



人権教育サポート

街頭啓発活動



人権本巡回制度 (ぬくもりボックス・フロー)

- ぬくもり本(人権本)を巡回
- 児童用(70冊)
- 1ヶ月毎に巡回



「ぬくもりまゆちゃん」のしおりをプレゼントします。

機関紙(ぬくもり) (全戸配布・年3回)



人権マンガ「ぬくもりまゆちゃん」入り

第10回 市民人権意識調査(4年毎)

調査対象者:市民男女各500人
調査項目:17質問
回答者:330人



ぬくもり講演会



「高齢者の人権講演会」高齢者の心元気に!

ぬくもり標語・300字小説募集



応募総数:3,099点

子どもぬくもり教室



“相手への思いやりの心”を大切に!
開催校:喜里小学校・旭小学校

人権週間(12月4日~10日)



人権啓発旗掲示

令和4年度活動報告
1万人啓発目標
達成!
啓発人口
13,795名

人権フェスティバル in ぎふ/人権マンガ展示



法務局・県が担当の人権展示に参加
マーサ21

ホームページ

- センターの沿革
- お知らせ
- 心のビタミン
- 活動報告
- ぬくもり4コマ「マンガ」



継続発信

特集

ぬくもり「SDGs」(エスディーゼズ)の取り組みについて②

※今回は、よく耳にするSDGsについて内容を載せます。詳しい情報については、機関紙「ぬくもり」No.71に載せてあります。(本センターホームページ、機関紙「ぬくもり」検索)

持続可能な社会を誓う

SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略で、「エスディーゼズ」と読みます。

人口増加や気候変動など、地球を取り巻く環境が激変するなかで、誰もが平和で豊かに暮らしていける社会を目指すために、2015年国連総会の首脳会合で全会一致で、決められました。

2015年から2030年までの15年間で、17つの目標を達成することを「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に書き込まれています。

この文書の土台には人権の尊重があり、「誰一人取り残さないことを誓う」と明記されています。



SDGs 日本の課題

SDGsは「誰一人取り残さない」が大きなテーマです。

この大きな目標に向かって世界中の人々が具体的に取り組むために、17の目標が掲げられました。

中でも人権や環境問題、経済・社会の問題など様々な課題を解決するために、世界中の国々が持続可能な社会を誓っています。

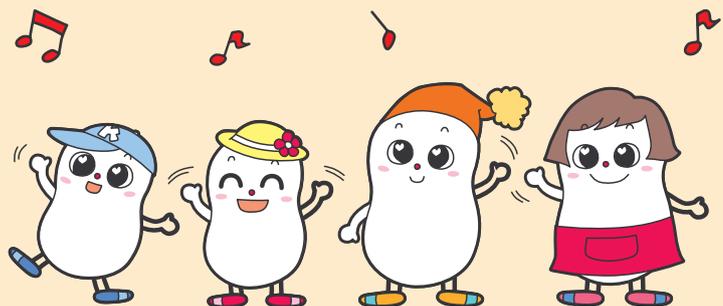
スウェーデンで、「ストックホルム+50」という国際会議が開かれ(令和4年6月2日、3日)各国代表は世界の共通目標達成に向けた行動を増やそうと訴えました。

これは、世界の代表の大人だけでなく、子どもでも取り組むことができます。

いじめをなくすことは「16. 平和と公正をすべての人に」等、価値観が通じています。

このような運動を積極的に行うだけでもより良い世界の実現に一步近づくことができます。

「次の世代により良い世の中を受け継ぐことができるように」という思いを持って、努力を積み重ねることが必要であり、今からでもできることは実行していきましょう。



心のドア
ちょっと
いい話



「思いやりの 気持ちを行動に」

ぬくもり まゆちゃん 42

〈我以外 皆師なり〉
作・画：miho



(当センター職員による作品です)

★金曜日の午後。下校時間の中学校の周辺道路では、いつも以上に元気で弾けた生徒の集団でごった返しています。

登校時は自転車に乗って走り去る生徒も、この時ばかりは徒歩の生徒の歩みに合わせ集団になりいつも以上に声も大きく、まるで時間を惜しむ蟬の大合唱。学校の授業、部活、先生、友達、テストの結果、週末の予定、進路のこと等、時季により話の主題は変わるものの難解な若者言葉による会話の展開の速さに比べ、歩く速度の遅さこの上なし。

皆さんにもこの世代のことに心当たりがありませんか。

そんなある金曜日の午後。その中学生集団の後方を小学1年生と思わしき児童が1人、集団を追い抜こうか躊躇しながら、後ろを歩いたり立ち止まったりしていました。中学生と言えども、小1の児童にとっては大人の集団と同じ。なかなかその集団を割って追い越すことは、困難です。

その時、偶然、後ろから来た高学年の児童が、追いつきざま小1児童の手を引いてその集団をすり抜けそのまま何の抵抗もなく前に歩いて行きました。

あまりに自然な流れに兄弟かなと思って見ていましたが、次の交差点で言葉を交わすわけでもなく左右に分かれそれぞれ立ち去って行きました。

これを見て、家族でもなく年齢が離れていてもこうした気持ちをスマートに表せる今どきの子どもを羨ましく思いました。

もちろん中学生もごく自然に半歩、一歩と道を譲ったことは言うまでもありません。

日常の中で、お互いの優しさを感じられる社会も、こうした一歩からとの思いをしたところでは。

(H・I)



募集

ぬくもり人権啓発
「標語・300字小説」

第23回

- テーマ
道徳的な「感謝・希望・勇気・友情」の大切さ、尊厳について
- *小説は題名、会話を入れること
- 応募資格
市内在住の人(小中学生(高一一般応募方法
はがきの表に住所・氏名・電話、裏に作品(小説1点、標語2点まで))
- 応募締切
9月1日(消印有効)
- 入賞作品数
標語30点・小説7点
- 入賞発表
11月初旬本人通知
- (小中学生は、学校から)
- 作品展示(入賞作品)
人権週間前後(11月17日~12月15日)に市図書館で展示。また機関紙「ぬくもり」等に掲載
- *入賞者には、表彰状と図書カードを贈呈
- *小中学生は学校を通して応募してください。
- あて先
本センター宛(本表紙ご参照)

感謝

「ボックス・フロー(小学校人権本巡回)」

子どもたちから嬉しい声がセンターに届きました♪



ボックス・フローに伺った学校から、お礼のお手紙が届きました!



葉を集めてくれている子どもから、写真が届きました🌸

「啓発のひかり」

★A.C.ジャパンの広告をご覧になった事がありますか。高齢者とラッパーとの掛け合いがちょっと心ひかれるコマージュルです。ラッパーや高齢者に対する見方・思い込みを「なるほど」と思わせる様なコマージュルに仕立てています。「たたくより、たたえ合おう」というキャッチフレーズで、心がホックリします。(R・H)

★この春、三年ぶりに学生時代の友人と会うために、もう一人の友人と共に飛騨古川へ出かけた。マスコットと仲良くしながらも、コロナ禍のそれぞれの生活の様子を報告し合ったりして、心ゆくまでおしゃべりを楽しみ、ゆったりと心地よい一日を過ごすことができた。会いたい人と自由に会えること、かけがえのないなさを実感した一日であった。(M・O)

★友人が6歳の娘とランドセルを選びに行った際娘さんの要求があまりにも突飛で、思わず「みんなが選ぶような色にしない!」と言ったところ、「だったらお母さんが小学校に行けばいいじゃない!」と言いつつ放たれてしまったそうです。

親は先回りをしてアドバイスをしているつもりでも、子どもにとっては強要になってしまいます。「失敗は学びのチャンス」と思い、子どもの意見を多少は受け入れられる広い度量をもちたいものです。(Y・M)

★本センターのキャッチフレーズは、「はぐくもう 思いやりの心」です。

一つの言葉で嬉しくもなり、悲しくもなります。

相手が悲しくなる言葉を遣うと後から思い出した時、自分も悲しくなります。

一つの言葉を大切に、これからは「自分を省みる心」「思いやりの心」を育てていこうと思えます。(M・H)